

神戸女学院岡田山キャンパスの高等植物相（Ⅱ）.
各論第2部—種子植物門，被子植物亜門，双子葉植物綱，離弁花亜綱—

野 寄 玲 児
熊取谷 薫
北 川 智 美
西 原 光 恵

Summary

Flora of Higher Plants Native to the Okadayama Campus, Kobe College, Western Japan (II).
Floral Description, Part 2—Subclass Choripetalae, Class Dicotyledoneae, Subdivision Angiospermae—

NOZAKI Reiji
KUMATORIYA Kaoru
KITAGAWA Tomomi
NISHIHARA Mitsue

The second issue of the flora of Okadayama Campus describes 275 plant species in 62 families belong to a subclass Choripetalae, class Dicotyledoneae, subdivision Angiospermae, division Spermatophyta.

本報告は岡田山産高等植物目録の第2報で、被子植物亜門、双子葉植物綱、離弁花亜綱に所属する62科275種（3雑種を含む）、1亜種、7変種、6品種について解説する。第1報では、離弁花亜綱に所属する科の数を61科としていたが、正しくは62科であったのでここで訂正しておく。したがって、岡田山産高等植物の総科数は123科となる。

本報に収録した植物の種名や学名は、第1報（野嵜ほか 2006）と同様に Iwatsuki *et al.* eds. (1999, 2001, 2006), 佐竹ほか編 (1982, 1989a, b), 神奈川県植物誌調査会編 (2001), 清水編 (2003) を参考にした。また、兵庫県内における分布の概要については、福岡ほか編 (2000, 2001, 2002, 2003) によった。既存目録は前報と同じく、目録1（神戸女学院高等学部理科研究部編 1967）、目録2（岡田山の自然編集委員会編 1974）および目録3（神戸女学院環境保全委員会編 1982）であるが、目録2の再版（岡田山の自然編集委員会編 1976）に増補リストがあったので、該当種の既存資料欄には目録2（再版）として引用した。

ANGIOSPERMAE 被子植物亜門

DICOTYLEDONEAE 双子葉植物綱

CHORIPETALAE 離弁花亜綱

23. Myricaceae ヤマモモ科

1. *Myrica rubra* Siebold et Zucc. ヤマモモ

在来 I・Ⅲ・Ⅳ KC (D) 19713.

暖温帯の沿海域に生育する常緑広葉高木。構内にみられる本種の大部分は植栽樹であるが、南山や西側斜面には自生状態の個体がわずかにみられる。これらが真の自生か否かについては検討の余地があるが、岡田山の東麓にある旧家（門戸岡田町11丁目）の屋敷林に、胸高直径1mを超える大木があることから、岡田山のものも自生と考えられる。

24. Salicaceae ヤナギ科

Populoideae ヤマナラシ亜科

2. *Populus tremula* L. var. *sieboldii* (Miq.) H. Ohashi ヤマナラシ

在来・絶滅 目録1・2 I[†] KC (E) 19916S.

温帯の山地に生育する夏緑広葉高木で、近畿地方の低海拔地では山火事跡地に多い。岡田山では西山の斜面下部に数本の高木があったが、市道今津西線の工事で消滅した。また、オルチン記念音楽館西側の斜面にも中径木があったが、つる植物に被覆されて枯死した。

Salicoideae ヤナギ亜科

3. *Salix babylonica* L. シダレヤナギ

帰化 I・Ⅳ 19551S, 20105S.

中国原産の夏緑広葉高木で、街路や公園などに植栽され、河川などで野生化している。岡田山では市道今津西線の法面に逸出個体が見られる。

4. *Salix alopochroa* Kimura サイコクキツネヤナギ

在来・絶滅 目録1・2 II[†] KC (E)

西日本の草原や湿地に生育する夏緑広葉低木。目録1・2にキツネヤナギとして記録されているが、標本は残されていない。近辺では西宮市甲陽園の記録がある（小林ほか 1998）。なお、目録1・2にはオオキツネヤナギ *Salix futura* Seemen も記録されているが、本種は兵庫県には分布せず（福岡ほか編 2000）、サイコクキツネヤナギもしくは他のヤナギ類の誤同定と考えられる。

25. Betulaceae カバノキ科

5. *Alnus sieboldiana* Matsum. オオバヤシャブシ

逸出・絶滅 目録1・2 I† KC (E) 19768.

伊豆諸島付近を原産地とする夏緑広葉高木。本州以南の各地に生育している個体は、砂防用の植栽樹から広がったものといわれる。かつての六甲山の緑化には本種が多く用いられ、岡田山の個体もこうした緑化個体からの逸出と考えられる。ただし、南山に生育していた唯一の個体は2002年に枯死した。付近では門戸厄神の樹林にもみられる。

6. *Alnus japonica* (Thunb.) Steud. ハンノキ

在来 IV KC (B) 19183.

温帯の低湿地に生育する夏緑広葉高木。新社交館の北側斜面（西側斜面の一部）に、胸高直径20~30 cm、樹高約15~18mの数個体が生育している。岡田山には低湿地は存在しないが、斜面の途中から湧水があり、本種の生育に適した環境が維持されている。次種と共にかつての当地域の自然環境を推定する上で重要な種である。

7. *Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz. サクラバハンノキ

在来 IV J (Nt), KI (C), KC (A) 19200, 19459.

下部温帯の低湿地に生育する夏緑広葉高木。岡田山では、新社交館の北側斜面にハンノキとともに数個体が生育していたが、この10年ほどの間に相次いで枯死し、現在では樹高約13m、胸高直径18.5cmの1個体が残るのみである。福島県以南に分布するが、個体数が少なく、環境庁のレッドデータブック（環境庁自然保護局野生生物課編 2000）では準絶滅危惧種に指定されている。

26. Fagaceae ブナ科

Quercoideae コナラ亜科

8. *Quercus phillyraeoides* A. Gray ウバメガシ

在来 目録2 I・III・IV 19245, 19812.

暖温帯の沿海域に多い常緑広葉高木で、関西では庭木や生垣によく用いられる。ヤマモモと同様に、岡田山にみられる本種の大半は植栽樹であるが、西側の急斜面を中心に自生状の個体が稀にみられる。最大の個体は樹高約8m、胸高直径35cmである。これらが真の自生か否かについては検討の余地があるが、岡田山は本種の自生域の範囲内に入ると考えられる。

9. *Quercus acutissima* Carruth. クヌギ

在来 目録1・2 II・III・IV KC (D) 19273, 19815.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。二次林に多く、岡田山でもII・IV地区を中心に自生状の個体がみられるが、実生による更新はほとんど認められない。在来種ではあるが、河川敷等の低湿地の個体群以外は植栽起源と考えるのが妥当である（野嵜 1994）。

10. *Quercus variabilis* Blume アベマキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19005, 19660, 19814.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山では森林にやや普通。関西の雑木林の主要構成種の一つである。

11. *Quercus serrata* Murray コナラ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19155, 19552, 19813.

下部温帯に生育する夏緑広葉高木で、本州以南の二次林の主要構成種。岡田山では東山、西山の森林で優占する。

12. *Quercus aliena* Blume ナラガシワ

在来 III KC (A) 19131S, 19765S, 20156.

下部温帯に生育する夏緑広葉高木。コミュニケーションセンター北側の林縁に、小径木が1個体のみ生育している(樹高7m, 胸高直径10cm)。次のオオバコナラの存在から考えると、かつては斜面下部や谷筋などに少数個体が生育していたものと推測される。なお、本個体は葉裏に毛が少なく鮮緑色を呈するアオナラガシワ var. *pellucida* Blume に相当するが、本種では若齢個体や低出枝の葉は毛が少ないのが普通であり、とくに区分する必要はないと思われる。

H1. *Quercus* × *major* Nakai (*Q. aliena* × *Q. serrata*) オオバコナラ (雑種)

在来 I KC (A) 19138, 19778.

ナラガシワとコナラの雑種と推定される夏緑広葉高木で、果実(堅果)や葉の形質が両種の間を呈する。オルチン記念音楽館南側の雑木林林縁に1個体(樹高15m, 胸高直径36cm)のみが生育している。毎年、大型の堅果を付けるが、種子は不稔である。兵庫県内の産地は少ない。

13. *Quercus glauca* Thunb. アラカシ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19264, 19811.

暖温帯に生育する常緑広葉高木で、西日本の自然林や二次林の主要構成種の1つ。岡田山では森林に普通で、南山の一部では高木層の優占種となる。

Castanoideae クリ亜科

14. *Castanea crenata* Siebold et Zucc. クリ

在来 I・II・III KC (B) 19746.

下部温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山には果実の大きな栽培型と小さな野生型(シバグリ)とがある。遷移の進行に伴って近年個体数が急激に減少した。野生型の個体は、東側斜面にあった大径木がダッドレー館建設に伴って枯死し、谷門と音楽館周辺に中径木が2~3個体残るのみである。

15. *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba スダジイ

逸出・植栽 I・II・III・IV

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山にはシイ類の自生はないが、数年前から林内の各所で稚樹がみられるようになった。1978年に谷門の照葉樹林内に植えられたスダジイ十数株が、成長して結実齢を迎えており、これらの植栽個体からの散布種子によるものと考えられる。なお、植栽個体にはコジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky も少し混ざっているが、稚樹の段階では区別できないのでここではスダジイとして記載した。

27. Ulmaceae ニレ科

Ulmaceae ニレ亜科

16. *Ulmus parvifolia* Jacq. アキニレ

逸出 III・IV 20141S.

暖温帯の河辺に生育する夏緑広葉高木。岡田山では庭園や路傍にしばしば幼樹がみられるが、北側に隣接する聖和大学構内の植栽樹からの散布種子によるものと考えられる。近辺では武庫川の河川敷に自生している。

17. *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ケヤキ

在来・絶滅 目録1・2 III[†] KC (E)

下部温帯に生育する夏緑広葉高木。目録1・2に記録があるが、現在の構内には植栽樹以外はみられない。構外の東斜面の竹藪（門戸岡田町11丁目）には自生状の大木がみられる。

Celtoideae エノキ亜科

18. *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. ムクノキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19201, 19817, 20090.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。河辺や沖積低地などの半湿生林の要素であるが、岡田山では森林に普通。とくに西側斜面に大木が多く、一部で優占する。

19. *Celtis sinensis* Pers. エノキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19216, 19816.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。ムクノキと同様に、河辺や沖積低地などの半湿生林の要素であるが、岡田山では森林に普通。とくに西側斜面に大木が多く、ムクノキと混交し一部で優占する。

28. Moraceae クワ科

20. *Humulus japonicus* Siebold et Zucc. カナムグラ

在来 目録1・2 I・III・IV 19488, 19489.

原野や林縁に生育する1年生のつる植物。岡田山では林縁にやや普通で、とくに西側斜面に多い。

21. *Fatoua villosa* (Thunb.) Nakai クワクサ

在来 I・II・III・IV 19202, 19575.

畑や路傍に生育する1年草。岡田山では各所の路傍や植え込みに普通。

22. *Ficus erecta* Thunb. イヌビワ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19178, 19818.

暖温帯に生育する夏緑広葉低木。岡田山では各所の森林にごく普通。

F1. forma *sieboldii* (Miq.) Corner ホソバイヌビワ

在来 III KC (B) 20103S, 20147S.

葉が狭披針形となる品種。母種からは特に区別する必要はないという見解もある。岡田山では谷門の森の林縁に1個体のみみられる。

23. *Morus alba* L. マグワ

帰化 III 20133S.

中国原産の夏緑広葉小高木。岡田山では谷門の林縁にやや稀にみられるが、何れも幼樹で、植栽樹からの散布種子による逸出個体と考えられる。

24. *Broussonetia papyrifera* (L.) Vent. カジノキ

帰化・植栽? II 20205.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。院長公舎北側の林縁に樹高約10m、胸高直径20~30cmの数個体が生育している。東南アジアから中国南部の原産といわれるが、樹皮から和紙をつくるために古くから栽培され、正確な原産地は不明。岡田山の個体も古くに植栽されたものか、あるいはそうした個体からの逸出と考えられる。

25. *Broussonetia kazinoki* Siebold ヒメコウゾ

在来・絶滅 目録2 II[†]・III[†] KC (E)

下部温帯に生育する夏緑広葉低木。東山の林縁に少数個体が生育していたが、1994年の洪水で全て枯

死した。標本は採れていない。目録2にはコウゾとして記載されている。

29. Urticaceae イラクサ科

26. *Boehmeria nivea* (L.) Gaudich. var. *nivea* ナンバンカラムシ (ラミー)
帰化 II 19614, KK93
路傍に生育するアジア大陸原産の大型の多年草。繊維を採るために古くから栽培される。岡田山では院長公舎付近の林縁にやや稀。
- V1. var. *concolor* Makino カラムシ (クサマオ)
在来 I・II・III 19330.
茎や葉裏に粗い毛を欠く変種で、母種と同じような環境にみられる。岡田山では空き地や林縁にやや稀。
27. *Boehmeria japonica* (L. fil.) Miq. var. *longispica* (Steud.) Yahara ヤブマオ
在来 目録1・2 I・II・IV KC (C) 19882, 19907.
原野や林縁などに生育する大形の多年草。岡田山では四十谷川沿いの林縁部等に小群落が見られる。
28. *Boehmeria platanifolia* Franch. et Sav. ex C. H. Wright メヤブマオ
在来 II・III・IV KC (B) 19460, 19490, KK145.
林縁に生育する大形の多年草。谷門や西側斜面の林縁部に少数個体がみられる。なお、目録1・2にアカソ *Boehmeria tricuspis* (Hance) Makino の記録があるが、本種の誤認と思われる。

*目録2にコアカソ *Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb. (III地区) の記録があるが、今は見られない。林縁や石垣などに生育する多年草で、広場が造成される以前の谷門周辺に自生していた可能性がある。

30. Santalaceae ビャクダン科

29. *Thesium chinense* Turcz. カナビキソウ
在来 目録1・2 I・II KC (B) 19042, 19596, KK43.
明るい草地に生育する小型の多年草。岡田山では正門からの車道沿いにある林縁草地に小集団がみられる。

31. Polygonaceae タデ科

30. *Rumex acetosella* L. subsp. *pyrenaicus* (Pourr. ex Lapeyr.) Akeroyd ヒメスイバ
帰化 目録2 II・III・IV 19386, KK45.
草地や路傍に生育するヨーロッパ原産の多年草。岡田山では路傍にやや普通。
31. *Rumex acetosa* L. スイバ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19662, 19663, KK44.
原野や路傍に生育する多年草。岡田山では路傍や植栽樹群地にやや普通。
32. *Rumex japonicus* Houtt. ギシギシ
在来・絶滅 目録1・2 I⁺・II⁺ (I) KC (E) 19757, KK83.
原野や河川に生育する多年草。最近まで本学院の飛び地であった放棄水田(岡田山3丁目)に生育していたが、土地の売却・埋め立てにより消滅。現在は音楽館南側の側溝沿いに移植された個体が生育している。
33. *Rumex crispus* L. ナガバギシギシ
帰化 II・III 20050.
原野や河川に生育するヨーロッパ原産の多年草。岡田山では庭園にやや稀。

34. *Rumex conglomeratus* Murray アレチギシギシ
 帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19134, 19740, KK69.
 荒地や路傍に生育するユーラシア大陸原産の多年草。岡田山では路傍や空き地に普通。
35. *Rumex obtusifolius* L. エゾノギシギシ
 帰化 II・III・IV 19182, 19747, 19823.
 原野や路傍に生育するユーラシア大陸原産の多年草。岡田山では路傍にやや普通。なお、目録1・2にノダイオウ *Rumex longifolius* DC.の記録があるが、本種もしくは他のギシギシ属植物との誤認と考えられる。
36. *Fagopyrum dibotrys* (D. Don) H. Hara シャクチリソバ
 帰化 IV 20213.
 ヒマラヤ原産の1年草。岡田山では、四十谷川沿いの林縁に稀にみられる。なお、同属のソバ *Fagopyrum sagittatum* Gilib.も中庭等に時折みられるが、すぐに消える。小鳥用の餌などから発生するようである。
37. *Polygonum aviculare* L. ミチヤナギ
 在来 II・IV 19318, 19518.
 路傍に生育する小型の1年草。岡田山では発生は単発的で、グラウンドや路傍に稀にみられる。
38. *Fallopia japonica* (Houtt.) Ronse Decr. イタドリ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19496, 19553.
 草原や路傍に生育する大型の多年草。岡田山では草地・路傍にやや普通。
39. *Antenoron filiforme* (Thunb.) Roberty et Vautier ミズヒキ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19265, 19491, KK146.
 林縁や林内に生育する多年草。岡田山では各所の林縁にやや普通。
40. *Antenoron neo-filiforme* (Nakai) H. Hara シンミズヒキ
 在来・絶滅 III[†] KC (E) 19922, 19943.
 林縁や林内に生育する多年草。谷門広場の林縁部に2~3個体が生育していたが、近年は見られず絶滅したものと思われる。構外の門戸岡田町11丁目の林縁には今も小集団がみられる。
41. *Persicaria perfoliata* (L.) H. Gross イシミカワ
 在来 I・III 19454, 19864.
 荒地や路傍に生育する1年生のつる植物。岡田山では路傍等に時折発生する。
42. *Persicaria senticososa* (Meisn.) H. Gross ママコノシリヌグイ
 在来・絶滅 目録1・2 III[†] KC (E)
 水湿地に生育する1年草。目録1・2に記録があるが、標本は残されていない。
43. *Persicaria thunbergii* (Siebold et Zucc.) H. Gross ミゾソバ
 在来 IV KC (B) 19597, KK192.
 水湿地に生育する1年草。岡田山では、四十谷川沿いの小湿地に小群落がみられる。
44. *Persicaria chinensis* (L.) H. Gross ツルソバ
 逸出 I 19952.
 海岸の近くに生育する常緑多年草。西側の崖地に少数個体がみられるが、隣接する私有地に以前植え

られていたものが逸出したものと考えられる。本来の分布域は伊豆諸島および近畿地方南部以西である。

45. *Persicaria pubescens* (Blume) H. Hara ボントクタデ
在来・絶滅 目録1・2 I⁺・III⁺・IV⁺ KC (E) KK193.
河川などの水湿地に生育する1年草。四十谷川沿いの林縁に小群落がみられたが、現在はみられない。
46. *Persicaria longiseta* (Brujin) Kitag. イヌタデ
在来 I・II・III・IV 19014, 19492, KK103, KK108, KK194.
路傍に生育する1年草。岡田山では各所の路傍に普通。葉の形や花の色などに変異が多く、目録1・2でハナタデ *Persicaria posumbu* (Buch.-Ham. ex D. Don) H. Gross とあるのは、本種の誤認と思われる。
47. *Persicaria maculosa* Gray subsp. *hirticaulis* (Danser) S. Ekman et T. Knutsson var. *hirticaulis* ハルタデ
在来 I・II 19824, 20033.
路傍に生育する1年草。岡田山では路傍に稀に発生する。
V2. var. *pubescens* (Makino) Yonek. オオハルタデ
在来 II・III・IV 19055, 19065, 19473, 19493.
路傍に生育する1年草。岡田山では路傍や空き地にやや普通。
48. *Persicaria lapathifolia* (L.) Delarbre オオイヌタデ
在来 I・III・IV 19494, 19495, KK172.
路傍に生育する1年草。岡田山では路傍にやや稀にみられる。
49. *Persicaria scabra* (Moench) Moldenke サナエタデ
在来・絶滅 I⁺ KC (E) 20128.
水田に生育する1年草。本学院の飛び地であった放棄水田(岡田山3丁目)に生育していたが、土地の売却・埋め立てにより消滅。第1報(総論の絶滅種、表6)ではウラジロサナエタデとして記載したが、葉裏の毛の量には変異があり、とくに区別する必要がないので本報ではサナエタデとした。
- *目録1・2にヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Delarbre (I・IV地区)の記録があるが、今は見られない。河川の水際に生育する種であり、現在の岡田山には本種の生育できる環境はないが、コンクリート三面張りに改修される前の四十谷川には自生していた可能性がある。

32. Phytolaccaceae ヤマゴボウ科

50. *Phytolacca americana* L. ヨウシュヤマゴボウ
帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19173, KK99, KK104.
北アメリカ原産の大型の多年草。岡田山では林縁や空き地にやや稀。

33. Nyctaginaceae オシロイバナ科

51. *Mirabilis jalapa* L. オシロイバナ
帰化 I・II・III・IV 19450, KK123.
熱帯アメリカ原産の多年草。岡田山では路傍や林縁にやや稀。

34. Molluginaceae ザクロソウ科

52. *Mollugo stricta* L. ザクロソウ
在来 II・IV 19277.
路傍に生育する小型の1年草。阪神・淡路大震災後しばらくの間は、グラウンドを中心に各所にみら

れたが、現在では路傍に稀。

53. *Mollugo verticillata* L. クルマバザクロソウ

帰化 構外 15025.

熱帯アメリカ原産の1年草。本学の谷門に隣接する小さな畑地（民有地，門戸岡田町13丁目）に毎年発生しているが，構内にはみられない。

35. Portulacaceae スペリヒユ科

54. *Portulaca oleracea* L. スペリヒユ

在来 I・II・IV 19246, 19883.

畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では路傍や植込みにやや稀。

36. Caryophyllaceae ナデシコ科

Alsinoideae ハコベ亜科

55. *Arenaria serpyllifolia* L. ノミノツヅリ

在来 I・IV 20016.

路傍に生育する1年草。在来種であるが発生は単発的で，帰化植物的な挙動を示す。岡田山では近年，路傍を中心にやや増加傾向にある。

56. *Stellaria media* (L.) Villars コハコベ (ハコベ)

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19247, KK47.

畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では路傍や植え込みに普通。

57. *Stellaria neglecta* Weihe ミドリハコベ

在来 I・II・III・IV 19387, KK5, KK18.

林縁に生育する1年草。岡田山では庭園や林縁にやや普通。

58. *Stellaria alsine* Grimm var. *undulata* (Thunb.) Ohwi ノミノフスマ

在来 I・II・III・IV 19110, 19979, 19997.

水田や路傍に生育する1年草。阪神・淡路大震災後暫くの間は，各所の路傍にみられたが，現在では稀。岡田山本来の自生種ではないと思われる。

59. *Stellaria aquatica* (L.) Scop. ウシハコベ

在来 目録1・2 II・III・IV 19271, 19366, KK62.

路傍や水湿地に生育する多年草。岡田山では林縁・路傍にやや稀。

60. *Cerastium fontanum* Baumg. subsp. *triviale* (Link) Jalas var. *angustifolium* (Franch.) H. Hara ミミナグサ

在来 目録1・2 I・II・III・IV KC (B) 19659, 19991, 20011.

明るい草地に生育する1年草。稀に数年生育するものもある。郊外では普通の種であるが，近年都市周辺部ではほとんどみられなくなっている。岡田山では，院長公舎や音楽館，文・理学館など古い建物の周りに少数個体が見られる。

61. *Cerastium glomeratum* Thuill. オランダミミナグサ

帰化 目録2 I・II・III・IV 19335, 19640, KK4.

路傍や草地に生育するヨーロッパ原産の1年草。岡田山では，路傍や庭園にごく普通。

62. *Sagina japonica* (Sw.) Ohwi ツメクサ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19726, KK46.

日陰の路傍に生育する小型の1年草。岡田山では路傍・庭園にやや普通であるが、近年は減少傾向にある。

63. *Sagina maxima* A. Gray ハマツメクサ

在来 I・II・III・IV 19376, 19427 (SHO), 19793 (SHO).

本来は海岸付近に生育する小型の1年草。岡田山ではグラウンドや中庭などの明るい路傍や草地に普通。帰化植物ではないが、帰化植物的な挙動を示し、真のツメクサを圧倒しつつある。

Caryophylloideae ナデシコ亜科

64. *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F. N. Williams カワラナデシコ

在来・絶滅 目録1・2 I† KC (E)

明るい草原に生育する多年草。目録1・2に記録があり、写真(目録2)も残されているが、標本は採られていない。西山(I地区)にかつてあったススキ草原に生育していたようである。

65. *Dianthus armeria* L. ノハラナデシコ

帰化 III KK109.

ヨーロッパ原産の多年草。岡田山では寮周辺の路傍、庭園に稀にみられる。

66. *Silene gallica* L. シロバナマンテマ

帰化 II 20179, 20206.

ヨーロッパ原産の1年草。岡田山では、正門付近の路傍に近年毎年発生している。

37. Chenopodiaceae アカザ科

67. *Chenopodium album* L. var. *album* シロザ

在来 I・II・IV 19302, 19603.

畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では路傍、空き地にやや普通。古い時代に大陸から渡来した史前帰化植物と考えられている。

V3. var. *centrorubrum* Makino アカザ

在来 目録1・2 I† KC (E)

新芽や若葉が鮮紅色を呈するシロザの変種で、母種と同じような環境に生育する。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。

68. *Ambrina ambrosioides* (L.) Spach var. *ambrosioides* アリタソウ

帰化 目録1・2 I 19316.

路傍に生育するメキシコ原産の多年草。岡田山では路傍・空き地に稀。

V4. var. *anthelminticum* (L.) A. Gray アメリカアリタソウ

帰化 I・IV 19497, KK195.

南アメリカ原産のアリタソウの変種。分花序の苞葉が小さくて目立たないことで母種と区別される。岡田山では路傍・空き地に稀。

38. Amaranthaceae ヒユ科

69. *Amaranthus viridis* L. アオビユ (ホナガイヌビユ)

帰化 I 19923, KK117.

荒地や路傍に生育する熱帯アメリカ原産の1年草。岡田山では西側崖地下の空き地にやや普通。

70. *Amaranthus blitum* L. イヌビユ

在来・絶滅 目録1・2 II†

畑地や路傍に生育する1年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。

71. *Achyranthes bidentata* Blume var. *japonica* Miq. ヒカゲイノコズチ (イノコズチ)

在来 目録1 I・II・III・IV 19291, 19295, 19498.

林縁や日陰の路傍に生育する多年草。岡田山では林縁や路傍に普通。

- V5. var. *tomentosa* (Honda) H. Hara ヒナタイノコズチ

在来 目録2 I・III[†]・IV[†] KK180, KK196.

茎や葉に伏毛が多い変種で、荒地や路傍などより明るい環境に生育する。岡田山ではヒカゲイノコズチより明らかに少ない。

39. Magnoliaceae モクレン科

72. *Magnolia kobus* DC. コブシ

在来・絶滅 (一部逸出?) I[†]・IV KI (C), KC (E)

山地の谷間や河辺に生育する夏緑広葉高木。観賞用に昔から人家の庭に植栽され、近年では街路樹や緑化樹にも多く用いられているので、都市域においてコブシの自生を判断するのは難しい。レッドデータブック近畿研究会編 (1995) では、コブシはCランクの稀少種とされているが、河辺林や山地ではそれほど珍しい種ではない。岡田山では、南山の林内に樹高13m, 胸高直径15cm程度の個体が見られた。この個体は、発達した二次林内に自生状態で生育すること、生育地がオオミズゴケ群落のあった湧水湿地に近いことなどから、ここでは自生と判断した。しかし、2002年には周囲の樹木に被陰されて枯死し、標本は採れていない。この個体の他にも、林内に稀に幼樹が見られるが、これらが自生か逸出かは判断できない。

73. *Michelia compressa* (Maxim.) Sarg. オガタマノキ

在来・絶滅 III[†] HY (B), KC (E) 19064S (SHO).

暖温帯の照葉樹林に稀に生育する常緑広葉高木。谷門の照葉樹林内に高さ約2.5mの幼樹が生育していたが、1994年の濁水で枯死した。西宮市甕岩町の越木岩神社には大木があるので、おそらくはこの辺りから種子が散布され定着していたものと推測される。兵庫県内の産地はごく少ない。

40. Schisandraceae マツブサ科

74. *Kadsura japonica* (L.) Dunal サネカズラ (ビナンカズラ)

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19576.

暖温帯に生育する常緑性のつる木本。岡田山では各所の林縁に普通。

41. Lauraceae クスノキ科

75. *Cinnamomum camphora* (L.) J. Presl クスノキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19071, TK13.

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山では各所の森林にごく普通で、南山やデフォレスト館南側、ダッドレー館周辺、谷門の森などで優占している。

76. *Cinnamomum sieboldii* Meisn. ニッケイ

逸出 II・III 19231, 19322.

中国や沖縄の亜熱帯域に生育する常緑広葉高木で、西日本では薬や香料を採るために古くから栽培される。岡田山ではダッドレー館付近の林縁と谷門の林内に自生状の2本の高木があり、周囲の林内にもしばしば稚樹が見られる。これらの高木は古くに植栽されたものか、あるいはそうした個体からの逸出樹と考えられる。

77. *Cinnamomum yabunikkei* H. Ohba ヤブニッケイ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19331, TK9.

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山では南山や谷門の森など、発達した森林に普通。

78. *Lindera aggregata* (Sims) Kosterm. テンダイウヤク
 帰化 I 19001S, 19769S.
 中国原産の常緑広葉低木。薬用（烏薬）に栽培され、西日本ではしばしば野生化している。岡田山では南山の林内に少数個体がみられる。本種は兵庫県産維管束植物目録（福岡ほか編 2001）に収録されていない。
79. *Lindera umbellata* Thunb. クロモジ
 在来・絶滅 目録1・2 II[†] KC (E)
 温帯の森林に生育する夏緑広葉低木。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。森林の遷移が進行したことが原因で絶滅したものと考えられる。
80. *Litsea coreana* H. Lévl. カゴノキ
 在来 目録2 I・II・III・IV KC (B) 19507, 19819.
 暖温帯の森林にやや稀に生育する常緑広葉高木。樹皮が鹿子状に剥げ落ちるのでこの名がある。岡田山では森林にやや稀で、幼木は比較的多くみられるが、成木段階にまで成長した個体は、南山、東山などに数個体みられるに過ぎない。
81. *Machilus thunbergii* Siebold et Zucc. ex Meisn. タブノキ
 逸出・植栽 I・III・IV TK6.
 暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山にタブノキは自生しないが、数年前から林内の各所で稚樹がみられるようになった。1978年に西側斜面の緑化樹として植えられたタブノキが、成長して結実齢を迎えており、これらの植栽個体からの散布種子によるものと考えられる。
82. *Neolitsea sericea* (Blume) Koidz. シロダモ
 逸出 I
 暖温帯に生育する常緑広葉小高木。岡田山には本来自生しないと考えられるが、近年、南山の林内で稀に稚樹がみられる。庭木や街路樹としてよく植えられるので、そうした植栽個体からの逸出によるものと考えられる。

42. Ranunculaceae キンボウゲ科

Ranunculoideae キンボウゲ亜科

83. *Clematis apiifolia* DC. ボタンヅル
 在来 III KC (B)
 温帯の林縁に生育する木本性の夏緑つる植物。岡田山では、東側斜面の林縁に少数個体がみられる。小さな個体しかないので標本は採れていない。
84. *Clematis terniflora* DC. センニンソウ
 在来 目録2 I・II・III・IV KC (D) 19499, 19554.
 原野や林縁に生育する多年生の夏緑つる植物。岡田山では庭園や林縁にやや稀。
85. *Ranunculus sceleratus* L. タガラシ
 在来 目録2 I[†]・II[†]・IV KC (C) 19028, 19758, 20003.
 水田や河川に生育する1年草で、代表的な水田雑草のひとつ。本院の飛び地であった放棄水田（岡田山3丁目）に群生していたが、土地の売却・埋め立てにより消滅した。第1報（野寄ほか 2006）では絶滅種としたが、最近、四十谷川に生育しているのが確認された。近辺の水田や水路、小河川には今も普通にみられる。

86. *Ranunculus japonicus* Thunb. ウマノアシガタ (キンポウゲ)
 在来・絶滅 目録1・2 I†・II† KC (E)
 原野や草原に生育する多年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。
87. *Ranunculus cantoniensis* DC. ケキツネノボタン
 在来 I KC(B) 19727, KK48.
 原野や河川に生育する多年草。岡田山では正門付近の湿った路傍に少数個体が生育している。
88. *Ranunculus silerifolius* H. Lév. キツネノボタン
 在来 I・IV KC(C) 19162, 19367, 19748.
 水田や河川に生育する多年草。岡田山では万葉池周辺や四十谷川沿いにやや稀。

Isopyroideae シロカネソウ亜科

89. *Semiaquilegia adoxoides* (DC.) Makino ヒメウズ
 在来 目録2 I・II・III・IV 19338, 19641, KK6.
 暖温帯の林縁や石垣などに生育する多年草。どこにでもある植物ではないが、岡田山では植栽樹群地や林縁など、半陰の環境にごく普通にみられる。早春の3月から開花し、岡田山キャンパスに春を告げる代表的な植物の一つ。

43. Berberidaceae メギ科

90. *Nandina domestica* Thunb. ナンテン
 在来 目録1 I・II・III・IV 19419, 19803.
 暖温帯の森林に生育する常緑低木。庭木として植栽されるため、本来の生育地がはっきりせず、中国原産説と西南日本の石灰岩地等に自生するという説とがある。岡田山では森林にやや普通。
91. *Mahonia japonica* (Thunb.) DC. ヒイラギナンテン
 帰化 I・II・III・IV 19642.
 中国原産の常緑低木で、庭木として各地に植栽される。岡田山では森林にやや稀に逸出している。

44. Lardizabalaceae アケビ科

92. *Stauntonia hexaphylla* (Thunb.) Decne. ムベ
 在来 III
 暖温帯に生育する常緑性のつる木本。岡田山では谷門の森に幼個体が稀にみられるが、大きな個体が見られないので、本来の自生ではない可能性がある。
93. *Akebia quinata* (Thunb.) Decne. アケビ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19654, 19965.
 下部温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の林縁にごく普通。
94. *Akebia trifoliata* (Thunb.) Koidz. ミツバアケビ
 在来 目録2 I・II・III・IV 19657.
 温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の林縁に普通。

45. Menispermaceae ツツラフジ科

95. *Cocculus trilobus* (Thunb.) DC. アオツツラフジ (カミエビ)
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19192, 19839, KK164.
 下部温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の森林にごく普通。

46. Saururaceae ドクダミ科

96. *Houttuynia cordata* Thunb. ドクダミ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19395, 19745.

林縁や湿った路傍などに生育する多年草。岡田山では各所の林縁や音楽館の周辺などにごく普通。

97. *Saururus chinensis* (Lour.) Baill. ハンゲシヨウ

在来・絶滅 目録1・2 I† HY (C), KC (E)

暖温帯の湿地に生育する多年草。目録1・2に記録があり、写真も残されているが現在はみられない。近辺では西宮市大社町の記録がある(小林ほか 1998)。

47. Chloranthaceae センリョウ科

98. *Sarcandra glabra* (Thunb.) Nakai センリョウ

在来 目録1・2 I・II・III・IV HY (C), KC (B) 19219S, 19351 (SHO).

暖温帯の照葉樹林に生育する常緑広葉低木。岡田山では、各所の発達した森林内に少数個体がみられる。近辺では西宮市甕岩町の記録(小林ほか 1998)があるが、県内の産地は少ない。

48. Aristolochiaceae ウマノスズクサ科

Aristolochioideae ウマノスズクサ亜科

99. *Aristolochia shimadai* Hayata アリマウマノスズクサ (ホソバウマノスズクサ)

在来・絶滅 III† KC (E) 20001, 20102.

西日本の森林に生育する多年生の夏緑つる植物。明るい森林や林縁に生育し、岡田山では松風庵(茶室)付近の林縁に少数個体が生育していたが、今はみられないことから絶滅したと思われる。六甲山系には比較的多いが、県内の産地は比較的少ない。

49. Theaceae ツバキ科

Theoideae ツバキ亜科

100. *Camellia japonica* L. ヤブツバキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19634.

暖温帯の森林に生育する常緑広葉小高木。岡田山では各所の森林にやや普通。

101. *Camellia sasanqua* Thunb. サザンカ

逸出 I・II・III・IV 19621.

暖温帯の森林に生育する常緑広葉小高木。岡田山では、林内の所々に野生状の個体がみられるが、本来の分布域は九州や四国の南部であり、植栽樹やそれらからの逸出個体であると考えられる。

102. *Camellia sinensis* (L.) Kuntze チャノキ

帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19332, 19896.

中国西南部からインド北部の原産とされる常緑広葉低木で、日本の暖温帯域でも広く栽培されている。岡田山では、斜面下部の水分条件のよい林内にやや普通にみられる。

Ternstroemiodeae モッコク亜科

103. *Ternstroemia gymnanthera* (Wight et Arn.) Bedd. モッコク

在来 目録1・2 I・II・III・IV KC (C) 20002 (SHO).

暖温帯の沿海域に生育する常緑広葉高木。岡田山では森林にやや稀で、とくに大木は少ない。東側斜面にあった樹高約15mの高木はダッドレー館建設で伐採されたが、南山には樹高約10m、胸高直径23cmの高木がある。兵庫県内では瀬戸内海側に偏って分布するが、産地は比較的少ない。

104. *Cleyera japonica* Thunb. サカキ
在来 目録1・2 II・III・IV KC (B) 19207, 19830.
暖温帯の森林に生育する常緑広葉小高木。岡田山では東山や谷門などの森林にごく稀にみられる。

105. *Eurya japonica* Thunb. ヒサカキ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19217, 19635.
暖温帯の森林に生育する常緑広葉小高木。岡田山では森林にごく普通で、低木層の優占種となる。

50. Hypericaceae オトギリソウ科

106. *Hypericum erectum* Thunb. オトギリソウ
在来 目録1・2 I・II[†]・III KC (A) 19615, 19900.
草地や湿地の周辺に生育する多年草。岡田山では、音楽館周辺に少数個体がみられる。
107. *Sarothra laxa* (Blume) Y. Kimura コケオトギリ
在来 目録2 I・II KC (B) 19224, KK126.
湿地に生育する1年草。岡田山では、音楽館周辺の側溝沿いに少数個体がみられる。

51. Papaveraceae ケシ科

108. *Papaver dubium* L. ナガミヒナゲシ
帰化 I・II・III・IV 19413.
路傍に生育する地中海原産の1年草。西宮市内では、阪神・淡路大震災後に急激に目立つようになった。岡田山でも路傍にやや普通。
109. *Chelidonium majus* L. subsp. *asiaticum* H. Hara クサノオウ
在来・絶滅 目録1・2 IV[†] KC (E)
林縁や路傍に生育する1年草。目録1・2に記録があるが、現在はみられず、標本も採られていない。
110. *Corydalis incisa* (Thunb.) Pers. ムラサキケマン
在来 II・III・IV KC (C) 19975.
林縁に生育する1年草。岡田山では、ダッドレー館周辺や四十谷川沿いの林縁に稀にみられる。
111. *Corydalis heterocarpa* Siebold et Zucc. var. *japonica* (Franch. et Sav.) Ohwi キケマン
在来 IV KC (B) 19369, 19749 (SHO).
林縁に生育する1年草。岡田山では、四十谷川沿いの林縁にやや稀にみられる。兵庫県内の産地は比較的少ない。

52. Brassicaceae (Cruciferae) アブラナ科

112. *Orychophragmus violaceus* (L.) O. E. Schulz ショカツサイ (ハナダイコン)
帰化 II・III 19344, 19969.
林縁や路傍に生育する中国原産の1年草。岡田山では、路傍や林縁にやや稀。
113. *Lepidium virginicum* L. マメグンバイナズナ
帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19036, 19122, 19750, KK20.
路傍に生育する北アメリカ原産の1年草。岡田山では路傍にやや普通。
114. *Thlaspi arvense* L. グンバイナズナ
帰化 目録1・2 IV[†]
畑地や路傍に生育するヨーロッパ原産の1年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみら

れない。

115. *Capsella bursa-pastoris* (L.) Medik. ナズナ
在来 目録3 I・II・III・IV 19317, 19648, KK7, KK19.
畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では路傍にやや稀。
116. *Cardamine scutata* Thunb. オオバタネツケバナ
在来 IV KC (B) 19687, 20192, 20204.
山地の河川や水湿地に生育する1~2年草。岡田山では、四十谷川沿いの苔むした林縁に小集団がみられる。
117. *Cardamine flexuosa* With. タネツケバナ
在来 I・II・IV 19337, 19643, 19966.
水田や湿った路傍に生育する1年草。岡田山では、音楽館周辺の側溝や四十谷川沿いにやや稀。葉の形や花の大きさに変異が多く、花卉の長さが2mm程度と通常より小さなものがしばしばみられるが、タネツケバナの変異型とする工藤(2006)の見解に従っておく。
118. *Cardamine hirsuta* L. ミチタネツケバナ
帰化 I・II・III・IV 20176.
路傍に生育するヨーロッパ原産の1年草。岡田山でも、近年急速に広がり、今では路傍や空き地に普通。
119. *Rorippa indica* (L.) Hiern イヌガラシ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19146, 19396, KK49.
畑地や路傍、林縁などに生育する多年草。岡田山では路傍や林縁にやや普通。
F2. forma *viridiflora* Hiyama アオイヌガラシ
在来 III 19717.
花卉を欠くイヌガラシの品種。岡田山では母種に混じって稀にみられる。
120. *Rorippa dubia* (Pers.) H. Hara ミチバタガラシ
在来 I HY (C), KC (A) 19807 (SHO).
路傍に生育する多年草。兵庫県のレッドデータブック(兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課編2003)に掲載されているが、田舎の民家の庭先や神社の境内など、頻繁に除草される立地には普通にみられる。岡田山では正門付近の路傍に稀。
121. *Rorippa palustris* (L.) Besser スカシタゴボウ
在来 II・III 19670, 20035.
水田や河川、路傍に生育する1年草。岡田山では路傍に稀にみられる。

53. Droseraceae モウセンゴケ科

122. *Drosera rotundifolia* L. モウセンゴケ
在来・絶滅 目録1・2 I⁺・II⁺ KC (E)
かつての岡田山では西山に小規模な湧水湿地が点在し、各種の湿地生植物が生育していた(岡田山の自然編集委員会編1974)。本種はそうした貧栄養湿地に生育する多年草で、目録1・2に記録があり写真も残されているが、標本は採られていない。西宮市の甲山湿原には現在も多数の個体がみられる。
123. *Drosera spathulata* Labill. コモウセンゴケ
在来 目録1・2 I・II KI (Nt), HY (C), KC (A) 19462, 20009 (SHO).

貧栄養湿地に生育する多年草。岡田山では湧水が浸出する林縁に少数個体が生育している。トウカイコモウセンゴケ *Drosera tokaiensis* (Komiya et C. Shibata) To. Nakamura et Ueda に近いものもみられるが、ここではコモウセンゴケとして記載しておく。兵庫県内の産地は少ない。

124. *Drosera peltata* Sm. ex Willd. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi ex E. H. Walker イシモチソウ
在来・絶滅 目録1・2 I† J (Vu), KI (C), HY (C), KC (E)
貧栄養湿地や明るい草原に生育する多年草。目録1・2に記録があり写真も残されているが、標本は採られていない。西宮市の甲山周辺には現在も稀にみられる。

54. Crassulaceae ベンケイソウ科

Sedoideae マンネングサ亜科

125. *Sedum bulbiferum* Makino コモチマンネングサ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19111, 19759, 19785, KK74.
路傍や草地に生育する1年草。岡田山では庭園や路傍にやや普通。
126. *Sedum uniflorum* Hook. et Arn. subsp. *japonicum* (Siebold ex Miq.) H. Ohba メノマンネングサ
在来 (逸出?) IV HY (C) 19834, 20118.
路傍や石垣などに生育する多年草。岡田山では四十谷川の護岸にやや稀にみられるが、本来の自生ではない可能性が高い。

55. Saxifragaceae ユキノシタ科

Saxifragoideae ユキノシタ亜科

127. *Saxifraga stolonifera* Meerb. ユキノシタ
在来 目録2 II・III・IV 20110.
林縁や人家の周りに生育する多年草。岡田山では東側斜面や四十谷川沿いの林縁にやや稀。

Hydrangeoideae アジサイ亜科

128. *Deutzia crenata* Siebold et Zucc. ウツギ
逸出 目録1 I・II・III 19741, TK3.
温帯の森林に生育する夏緑広葉低木。岡田山には本来の自生はなく、植栽樹からの散布種子によると思われる逸出個体が林縁に稀にみられる。

56. Pittosporaceae トベラ科

129. *Pittosporum tobira* (Thunb.) W. T. Aiton トベラ
逸出 I・II・III・IV 20091S.
暖温帯の海岸に生育する常緑広葉低木。公園や街路によく植えられ、岡田山ではそれらからの逸出個体と思われるものが林内にやや稀にみられる。

57. Rosaceae バラ科

Maloideae ナシ亜科

130. *Aria japonica* Decne. ウラジロノキ
在来 I KC (B) 19165, 19841.
温帯の森林に生育する夏緑広葉高木。岡田山では西山の森林に生育し、胸高直径約15cm、樹高約10mの個体と胸高直径約10cm、樹高約8mの個体 (いずれも株立ち状) が現存している。本来は山地に多い種で、岡田山のような低地に生育するのは珍しい。
131. *Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne. var. *laevis* (Thunb.) Stapf カマツカ
在来 目録1・2 I・II・III・IV KC (D) 19164, 19679, 20100, TK2.

温帯の森林に生育する夏緑広葉低木。岡田山では各所の森林にやや稀にみられるが、東山の林縁には比較的多い。

132. *Photinia glabra* (Thunb.) Maxim. カナメモチ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19072, TK1, TK14.
東海地方以西の暖温帯に生育する常緑広葉小高木。岡田山では各所の森林にごく普通で、南山や西山、東山の森林では亜高木層の優占種となる。
133. *Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl. ビワ
逸出 目録2 I・II・III・IV 19626.
暖温帯に生育する常緑広葉小高木。岡田山では庭園にも植えられているが、林縁部を中心に各所に自生状の個体がみられ、植栽木からの逸出と考えられる。原産地は明らかでなく、中国原産説と西日本の石灰岩地に自生するという説とがある。
134. *Pyracantha angustifolia* (Franch.) C. K. Schneid. タチバナモドキ (ピラカンサ)
帰化 I・II・IV 19604, 19825.
中国原産の常緑広葉低木。赤い実をたくさん付けるので民家の庭によく植えられる。岡田山では、林縁や林内にやや稀にみられ、植栽木からの逸出と考えられる。
135. *Pyracantha coccinea* M. Roem. トキワサンザシ
帰化 I・III・IV 19555, 19840.
ヨーロッパ～西アジア原産の常緑広葉低木。前種と同様に庭によく植えられる。岡田山では、林縁にやや稀にみられ、植栽木からの逸出と考えられる。
136. *Rhaphiolepis indica* (L.) Lindl. ex Ker var. *umbellata* (Thunb.) H. Ohashi シャリンバイ
逸出 I・II・III 19074, 20104.
暖温帯の海岸に生育する常緑広葉低木。公園や街路によく植えられ、岡田山では、それらからの逸出個体と思われるものが林内にやや稀にみられる。
137. *Chaenomeles japonica* (Thunb.) Lindl. ex Spach クサボケ
在来 IV HY (B), KC (B) 19630, 19647 (SHO).
温帯の森林に生育する夏緑広葉低木。岡田山ではグラウンド西側の土手に小群落がみられる。古くに植栽された可能性もあるが、現在では概ね自生状態にある。兵庫県内の産地はごく少ない。
138. *Amelanchier asiatica* (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp. ザイフリボク
在来 目録1・2 I・II・III[†] KC (C) 19073, 19655, 20083.
下部温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では、西山や南山、東山の林内にやや稀。森林の遷移の進行に伴い、近年急激に個体数が減少している。

Prunoideae サクラ亜科

139. *Cerasus jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H. Ohba ヤマザクラ
在来 目録1・2 I・II・III・IV KC (D) 19652, 19976.
下部温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山では各所の森林にやや普通であるが、森林の遷移に伴って、高木の個体数が近年急激に減少している。
- F3. forma *pubescens* (Makino) H. Ohba ウスゲヤマザクラ
在来 II・III KC (C)
葉や若枝に軟毛を持つ品種で、岡田山では母種に混じって稀にみられる。目録1にカスミザクラ *Cerasus leveilleana* (Koehne) H. Ohba とあるのは、本種の誤認と思われる。

Rosoideae バラ亜科

140. *Rubus trifidus* Thunb. カジイチゴ
 在来 (逸出?) I・II†
 暖温帯の沿海域に生育する常緑低木。岡田山では、西山の林縁に少数個体のみられたが、市道今津西線の工事で消滅した。現在でも稀に幼個体のみられるが、本来の自生ではない可能性が高い。
141. *Rubus microphyllus* L. fil. ニガイチゴ
 在来・絶滅 目録2 II† KC (E)
 下部温帯の森林に生育する夏緑低木。本州以南の各地に普通の種であり、岡田山では目録2に記録があるが、現在はみられない。
- H2. *Rubus* × *toyorensis* Koidz. (*R. trifidus* × *R. hirsutus*) トヨラクサイチゴ (雑種)
 在来 IV KC (C) 20004, 20082.
 カジイチゴとクサイチゴの雑種と推定される夏緑性半低木。岡田山では、四十谷川沿いの林縁に小群落のみられる。本種は兵庫県産維管束植物目録 (福岡ほか編 2002) に収録されていない。
142. *Rubus parvifolius* L. ナワシロイチゴ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19440, 20028.
 原野や森林に生育する夏緑低木。岡田山では林縁や空き地に普通。
143. *Rubus armeniacus* Focke セイヨウヤブイチゴ
 帰化 III・IV 19391, 19820.
 ヨーロッパ原産のつる性の夏緑低木。岡田山では林縁にやや稀に逸出している。
144. *Rosa multiflora* Thunb. ノイバラ
 在来 I・II・III・IV 19244S, 19380, 20107.
 原野や林縁に生育するつる性の夏緑低木。岡田山では各所の林縁にやや普通。
145. *Rosa luciae* Rochebr. et Franch. ex Crép. テリハノイバラ
 在来 目録1・2 I・IV KC (C) 19156, 19804.
 原野や草原に生育するつる性の匍匐低木。岡田山では西側斜面の林縁や文学1号館の周辺などにやや稀にみられる。
146. *Rosa paniculigera* (Makino ex Koidz.) Momiy. ミヤコイバラ
 在来 I・II・III・IV 19132, 19163, 20051.
 森林に生育するつる性の夏緑低木。岡田山では各所の林縁に普通。なお、目録1・2にヤブイバラ *Rosa onoei* Makino の記録があるが、本種の誤認と思われる。
147. *Rosa laevigata* Michx. ナニワイバラ
 帰化 III† KC (E) 19381.
 中国原産のつる性の夏緑低木。温室付近の林縁に古木があったが、法面工事により伐採された。
148. *Agrimonia pilosa* Ledeb. var. *japonica* (Miq.) Nakai キンミズヒキ
 在来・絶滅 目録1・2 I† KC (E)
 草原や路傍に生育する多年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。
149. *Sanguisorba officinalis* L. ワレモコウ
 在来 目録1・2 I・II KC (D) 19474, 19517.

明るい草原や湿地の周辺に生育する多年草。都市域では少なくなった植物であるが、岡田山では音楽館周辺の草地に群生している。

150. *Duchesnea chrysantha* (Zoll. et Moritzi) Miq. ヘビイチゴ

在来 II・III・IV 19037, 19346.

原野や路傍に生育する多年草。岡田山では半陰の路傍や林縁にやや普通。

151. *Potentilla anemonefolia* Lehm. オヘビイチゴ

在来 III・IV 19352, 19692.

水田や湿った路傍に生育する多年草。岡田山では、阪神・淡路大震災後に路傍に稀にみられるようになった。岡田山の本来の自生種ではないと思われる。

152. *Potentilla sprengeliana* Lehm. キジムシロ

在来・絶滅 目録2 I† KC (E)

明るい草原に生育する多年草。目録2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。

153. *Potentilla freyniana* Bormm. ミツバツチグリ

在来 目録1・2 I・II†・IV† KC (A) 20094.

明るい草原に生育する多年草。郊外では各地に普通の種であるが、岡田山では音楽館北側の草地に少数個体がわずかに残るのみである。

58. Fabaceae (Leguminosae) マメ科

Caesalpinioideae ジャケツイバラ亜科

154. *Chamaecrista nomame* (Siebold) H. Ohashi カワラケツメイ

在来・絶滅 目録1・2 I†・II† KC (E) 19556.

明るい草原や路傍に生育する1年草。岡田山では音楽1号館北側の草地に少数個体がみられたが、最近は生育が確認できず、絶滅したものと考えられる。

Mimosoideae ネムノキ亜科

155. *Albizia julibrissin* Durazz. ネムノキ

在来 目録1・2 I・II†・IV KC (A) 19166, TK8.

暖温帯の森林に生育する夏緑広葉高木。岡田山では西側斜面の森林に少数個体がみられるが、自生状の高木は、西山に樹高約10m, 胸高直径15cmの1個体が生育するのみである。

156. *Acacia mearnsii* De Willd. モリシマアカシア

帰化 I 19167, 19644.

オーストラリア原産の常緑高木。岡田山では、デフォレスト館付近に植えられた植栽樹から種子が散布され、西山の森林に野生化している。

Papilionoideae マメ亜科

157. *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. イヌエンジュ

在来 目録2 I・II KC (A) 19461S, 20187.

温帯の森林に生育する夏緑広葉高木。岡田山では森林の遷移の進行に伴って個体数が減少し、現在では、東山の森林に幼樹が稀にみられるにすぎない。ダッドレー館建設予定地に生育していた樹高約11m, 胸高直径17cmの個体が文学館東側の庭園に移植されている。目録2にはハネミイヌエンジュ *Maackia floribunda* (Miq.) Takedaとして記載されているが、イヌエンジュの変異内に含まれるとする見解 (Ohashi 2001) に従っておく。

158. *Vicia sativa* L. var. *angustifolia* (L. ex Reichard) Wahlenb. ヤハズエンドウ (カラスノエンドウ)
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19693, KK37.
 畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では庭園や路傍、空き地にごく普通。
159. *Vicia tetrasperma* (L.) Schreb. カスマグサ
 在来 目録2 II・III・IV 19694.
 畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では庭園や路傍にやや普通。
160. *Vicia hirsuta* (L.) Gray スズメノエンドウ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19998, KK28.
 畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では庭園や路傍にやや普通。
161. *Wisteria japonica* Siebold et Zucc. ナツフジ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19002, 19842.
 森林に生育する夏緑性のつる低木。岡田山では林縁に普通。
162. *Wisteria floribunda* (Willd.) DC. フジ (ノダフジ)
 在来 目録1 I・II・III・IV 19664.
 温帯の森林に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では林縁や林内に普通。
163. *Medicago polymorpha* L. ウマゴヤシ
 帰化 III 19066, KK27, KK36.
 路傍に生育するヨーロッパ原産の1年草。岡田山では寮周辺の路傍に稀にみられる。
164. *Trifolium dubium* Sibth. コメツブツメクサ
 帰化 I・II・III・IV 19076, 19105.
 畑地や路傍に生育するヨーロッパ原産の1年草。岡田山では、庭園や路傍にごく普通。既存目録に記載がないことから、1980年代後半に定着し、その後急速に広がったものと思われる。
165. *Trifolium pratense* L. ムラサキツメクサ (アカツメクサ)
 帰化 目録1・2 I 19761.
 草地や路傍に生育するヨーロッパ原産の多年草。岡田山では路傍や道路法面に稀にみられる。
166. *Trifolium repens* L. シロツメクサ (クローバー)
 帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19354, KK13, KK42.
 草地や路傍に生育するヨーロッパ原産の多年草。岡田山では庭園や路傍、グラウンドなどにごく普通。
167. *Lotus corniculatus* L. subsp. *corniculatus* セイヨウミヤコグサ
 帰化 II・III 19075.
 草地や路傍に生育するヨーロッパ原産の多年草。岡田山では正門からの車道沿いにある小草地や寮周辺の路傍に稀。
- S1. subsp. *japonicus* (Regel) H. Ohashi ミヤコグサ
 在来 目録1・2 I・II⁺・IV⁺ KC (C) 19537, KK79, 20209.
 東アジアに分布するセイヨウミヤコグサの亜種で、葉や茎がほぼ無毛で、萼裂辺が萼筒より長いことで区別される。岡田山では、オルチン記念音楽館の法面にみられる。
168. *Indigofera pseudotinctoria* Matsum. コマツナギ
 在来 目録1・2 I・II KC (B) 19179, KK111.

草原や路傍に生育する夏緑性の匍匐半低木。岡田山では西山，東山の草地や林縁にやや稀。

169. *Crotalaria sessiliflora* L. タヌキマメ

在来 IV KI (C), KC (C) KK151, KK175.

草原や路傍に生育する1年草。岡田山では西門付近の土手草地に少数個体がみられる。岡田山の本来の自生種ではない可能性がある。

170. *Desmodium podocarpum* DC. subsp. *oxyphyllum* (DC.) H. Ohashi ヌスビトハギ

在来 II・III 19303, 19536.

路傍や荒地に生育する多年草。岡田山では庭園や路傍にやや稀。

171. *Desmodium paniculatum* (L.) DC. アレチヌスビトハギ

帰化 I・III・IV 19953, KK184.

路傍や荒地に生育する北アメリカ原産の多年草。岡田山では庭園や路傍にやや稀で、近年増えつつある。

172. *Lespedeza cyrtobotrya* Miq. マルバハギ

逸出 I・III・IV 20161, 20202.

草原や疎林に生育する夏緑性の半低木。目録1・2に記録があるが、これは次のツクシハギの誤りで、岡田山には本種の自生はない。岡田山では、防災法面に植えられた個体から種子が散布され、路傍等にしばしば逸出しているのがみられる。

173. *Lespedeza homoloba* Nakai ツクシハギ

在来 I・II・III・IV 19004, 19007, 19016, 19266, 19327, 19792.

草原や疎林に生育する夏緑性の半低木。岡田山に自生する低木性のハギは本種のみで、草地や林縁に普通。

174. *Lespedeza bicolor* Turcz. ヤマハギ

逸出 IV 19003, 19559, 19835, 19894.

草原や疎林に生育する夏緑性の半低木。目録2の再版に記録があるが、これも前記のツクシハギの誤り同定と思われ、岡田山には本種の自生はない。マルバハギと同様に、防災法面や庭園に植えられた個体から種子が散布され、路傍等にしばしば逸出しているのがみられる。

175. *Lespedeza pilosa* (Thunb.) Siebold et Zucc. ネコハギ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19527, 19557.

草地や路傍に生育する夏緑性の多年草。岡田山では庭園や路傍、林縁に普通。

176. *Lespedeza cuneata* (Dum. Cours.) G. Don var. *cuneata* メドハギ

在来 目録1・2 I・II・IV 19500, 19558, 19584.

路傍や荒地に生育する夏緑性の多年草。岡田山では路傍や防災法面にやや普通。

V6. var. *serpens* (Nakai) Ohwi ハイメドハギ

在来 目録1・2 I・II・IV 19526, 19585.

茎が地表を匍匐する変種で、岡田山では庭園や草地にやや普通。

H3. *Lespedeza* × *intermixta* Makino (*L. pilosa* × *L. cuneata*) ツルメドハギ (雑種)

在来 II KC (B) 19545 (SHO), 19586.

ネコハギとメドハギの雑種と推定される多年草で、岡田山では旧茶室跡の園地に稀。

177. *Kummerowia striata* (Thunb.) Schindl. ヤハズソウ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19254, 19529.
 路傍や荒地に生育する1年草。岡田山では庭園や路傍に普通。
178. *Rhynchosia volubilis* Lour. タンキリマメ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19059, 19501.
 暖温帯の林縁や原野に生育するつる性の多年草。岡田山では各所の林縁にごく普通。
179. *Dunbaria villosa* (Thunb.) Makino ノアズキ
 在来・絶滅 目録1・2 II[†] KC (E)
 畑地や草地に生育するつる性の多年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。
180. *Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi クズ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19436, KK165.
 温帯の森林や原野に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では林縁に普通。
181. *Amphicarpaea bracteata* (L.) Fernald subsp. *edgeworthii* (Benth.) H. Ohashi ヤブマメ
 在来 目録2 I・III・IV KC (D) 19560, 19936.
 原野や林縁に生育するつる性の1年草。岡田山では、谷門や四十谷川沿いの林縁にやや稀。
182. *Robinia pseudoacacia* L. ハリエンジュ (ニセアカシア)
 帰化 II
 北アメリカ原産の夏緑広葉高木で、各地で砂防用に植栽される。岡田山では、東山の林縁に近隣の植栽樹からの逸出個体が稀にみられるが、いずれも幼植物なので標本は採っていない。
183. *Amorpha fruticosa* L. イタチハギ
 帰化・植栽 I・IV 19561, 19760, 20042.
 北アメリカ原産の夏緑広葉低木で、各地で砂防用に植栽される。岡田山では、市道今津西線や西側斜面の防災工事法面に植栽され、一部が周囲の林縁に逸出している。

59. Oxalidaceae カタバミ科

184. *Oxalis corniculata* L. カタバミ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19106, 19577.
 畑地や路傍に生育する多年草。岡田山では庭園や路傍にごく普通。
- F4. forma *rubrifolia* (Makino) H. Hara アカカタバミ
 在来 IV 19999.
 葉が暗紅色になる品種で、岡田山ではグラウンド周辺の路傍にやや稀。
- F5. forma *tropaeoloides* (Schlachter ex Planch.) R. Knuth ウスアカカタバミ
 在来 I・III・IV 19411, 19779, 20099.
 葉が紅緑色になる品種で、岡田山では路傍にやや普通。
185. *Oxalis dillenii* Jacq. オッタチカタバミ
 帰化 I・II・III・IV 19107, 19708.
 路傍に生育する北アメリカ原産の多年草。近年急速に増え、岡田山では庭園や路傍に普通。
186. *Oxalis corymbosa* DC. ムラサキカタバミ
 帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19096, KK75.
 路傍に生育する南アメリカ原産の多年草。岡田山では各所の庭園や路傍、林縁にやや普通。

187. *Oxalis bowieana* Lodd. ハナカタバミ
帰化 II・III 19578.
路傍に生育する南アフリカ原産の多年草。岡田山では正門付近の生垣の下や空き地に集団がみられる。民家の庭に植えられたものから広がったようである。

188. *Oxalis pes-caprae* L. キイロハナカタバミ (オオキバナカタバミ)
帰化 II・III 19970.
路傍に生育する南アフリカ原産の多年草。岡田山では、正門と谷門付近の路傍に野生化している。

60. Geraniaceae フウロソウ科

189. *Geranium nepalense* Sweet ゲンノショウコ
在来 目録1・2 I・II[†]・IV KC (B) 19606, KK185.
明るい草原や路傍に生育する多年草。郊外では普通の種であるが、岡田山では西側斜面の林縁部にごく稀。
190. *Geranium carolinianum* L. アメリカフウロ
帰化 I・II・III・IV 19108, KK80.
路傍に生育する北アメリカ原産の1年草。岡田山では、10年ほど前にシェイクスピアガーデン周辺に定着し、その後は急速に増え、現在では庭園や路傍にやや普通。

61. Euphorbiaceae トウダイグサ科

Phyllanthoideae コミカンソウ亜科

191. *Phyllanthus lepidocarpus* Siebold et Zucc. コミカンソウ
在来 目録1・2 I・IV[†] 20165.
畑地や路傍に生育する1年草。目録1・2に記録があるが、近年はほとんどみられない。
192. *Phyllanthus ussuriensis* Rupr. et Maxim. ヒメミカンソウ
在来 I・II・III・IV 19218, 19471, 19884.
畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では各所の路傍にやや稀。

Acalyphoideae エノキグサ亜科

193. *Acalypha australis* L. エノキグサ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19259, KK147.
畑地や路傍に生育する1年草。岡田山では各所の路傍に普通。
194. *Mallotus japonicus* (Thunb. ex L. fil.) Müll. Arg. アカメガシワ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19048, 19157, TK7.
暖温帯の森林に生育する夏緑広葉高木。岡田山では各所の森林や林縁にごく普通。

Euphorbioideae トウダイグサ亜科

195. *Sapium sebiferum* (L.) Roxb. ナンキンハゼ
帰化 I・II・III・IV 19562S, 20130.
中国原産の夏緑広葉高木。紅葉が美しいので庭木や街路樹として植栽され、各地で野生化している。岡田山でも林縁を中心に野生化した個体がやや稀にみられる。
196. *Chamaesyce humifusa* (Willd. ex D. F. K. Schltldl.) Prokh. ニシキソウ
在来・絶滅 目録2 III[†] HY (C), KC (E)
路傍に生育する小型の1年草。目録2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。

197. *Chamaesyce nutans* (Lag.) Small オオニシキソウ
 帰化 目録2 I・II・III・IV 19275, 19885.
 畑地や路傍に生育する北アメリカ原産の1年草。岡田山では路傍や空き地に普通。
198. *Chamaesyce maculata* (L.) Small コニシキソウ
 帰化 目録1・2 I・II・III・IV 19194, KK105, KK110.
 畑地や路傍に生育する北アメリカ原産の1年草。岡田山では各所の路傍に普通。
199. *Euphorbia helioscopia* L. トウダイグサ
 在来 III 19986.
 路傍に生育する1年草。岡田山では谷門や寮周辺の路傍に時折発生する。

62. Daphniphyllaceae ユズリハ科

200. *Daphniphyllum teijsmannii* Zoll. ex Kurz ヒメユズリハ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19198, TK11, 20123.
 暖温帯の沿海域に生育する常緑広葉高木。岡田山では森林にごく普通で、とくに谷門の森では高木層の優占種となる。本来は海の近くに多い樹木であるが、神戸市岡本町素戔鳴神社、西宮市甕岩町越木岩神社など、六甲山系の麓から点々と優占林が報告されている（環境庁編 1980）。

63. Rutaceae ミカン科

Rutoideae サンショウ亜科

201. *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. サンショウ
 在来 目録2 I・II・III KC (B) 19805.
 温帯の森林に生育する夏緑低木。岡田山では森林にごく稀。
202. *Zanthoxylum schinifolium* Siebold et Zucc. イヌザンショウ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19234, 19908.
 暖温帯に生育する夏緑低木。近畿地方の低海拔地では山火事跡地に多い。岡田山では西山、東山の林縁部を中心にやや普通。
203. *Zanthoxylum ailanthoides* Siebold et Zucc. カラスザンショウ
 在来 I
 暖温帯に生育する夏緑高木。岡田山では林縁に稀に幼樹がみられる。野鳥が種子を運ぶものと思われるが、長く定着しない。

Aurantioideae ミカン亜科

204. *Citrus natsudaidai* Hayata ナツミカン
 逸出 I・III・IV TK10S.
 暖温帯域に栽培される常緑小高木。岡田山では、発達した森林の林床に稀に幼樹がみられる。構内や付近の民家に植えられている母樹から、種子が散布されたものと考えられる。

64. Meliaceae センダン科

205. *Melia azedarach* L. センダン
 逸出 I・II・III・IV 20040.
 亜熱帯～暖温帯に生育する夏緑広葉高木。本来の分布域は四国、九州以南とされる。岡田山には、大学中庭に古い植栽木があり、各所の林縁に様々なサイズの逸出個体が見られる。

65. Polygaraceae ヒメハギ科

206. *Polygala japonica* Houtt. ヒメハギ

在来 目録2 I・II KC (B) 19371, KK118.

明るい草地や林縁に生育する小型の多年草。岡田山では西山や東山の林縁に稀。

66. Anacardiaceae ウルシ科

207. *Rhus javanica* L. ヌルデ

在来 I・II・III・IV 19508, 20157.

暖温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では各所の林縁にやや普通。

208. *Rhus trichocarpa* Miq. ヤマウルシ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19077, 20113.

暖温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では各所の森林や林縁にやや普通。

209. *Rhus succedanea* L. ハゼノキ (ハゼ)

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19211, 20114.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山では各所の森林に普通。

210. *Rhus sylvestris* Siebold et Zucc. ヤマハゼ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19189, 20115.

暖温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山では各所の森林にやや稀。

67. Aceraceae カエデ科

211. *Acer palmatum* Thunb. イロハモミジ

逸出 I・II・III 20087.

暖温帯の渓谷に生育する夏緑広葉高木。岡田山には本来の自生はないが、万葉池周辺や中庭などに古い植栽樹があり、それらからの散布種子によると思われる幼樹が各所の林内にみられる。

212. *Acer buergerianum* Miq. トウカエデ

帰化 II・III・IV 19754S.

中国原産の夏緑広葉高木。岡田山では庭園や路傍にしばしば幼樹がみられるが、北側に隣接する聖和大学構内の植栽樹からの散布種子によるものと思われる。

68. Aquifoliaceae モチノキ科

213. *Ilex crenata* Thunb. イヌツゲ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19751.

下部温帯に生育する常緑広葉低木。岡田山では西山、東山など比較的若い森林を中心にやや普通。

214. *Ilex chinensis* Sims ナナミノキ

在来 III KC (A) 19133.

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山では、谷門の森に樹高約17m、胸高直径35cmの雄株がただ1個体のみみられる。

215. *Ilex pedunculosa* Miq. ソヨゴ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19112, 20170.

温帯に生育する常緑広葉小高木。岡田山では森林に普通で、とくに南山の尾根から斜面上部にかけて大木が多くみられる。

216. *Ilex rotunda* Thunb. クロガネモチ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19006, TK17.

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山では森林に普通で、とくに院長公舎西側の斜面に多い。

217. *Ilex integra* Thunb. モチノキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19235, 19688 (SHO).

暖温帯に生育する常緑広葉高木。岡田山では各所の森林に普通で、とくに谷門の森の亜高木層で優占種となる。

218. *Ilex serrata* Thunb. ウメモドキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19256, 20052, TK12, 20194.

温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では、西山、東山、西門歩道を中心に森林にやや普通。

69. Celastraceae ニシキギ科

219. *Euonymus alatus* (Thunb.) Siebold forma *striatus* (Thunb.) Makino コマユミ

在来 I KC (B) 19270, 19345.

温帯に生育する夏緑広葉低木。岡田山では、文学部1号館東側の斜面に1株のみみられる。植栽記録はないが、この斜面は工事の際に一度更地になっているので、本個体が本来の自生かどうかはわからない。

220. *Euonymus japonicus* Thunb. マサキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19434, 19865.

暖温帯の沿海域に生育する常緑広葉低木。岡田山では各所の林縁や林内にやや普通。

221. *Euonymus sieboldianus* Blume var. *sieboldianus* マユミ

在来 目録1・2 I・II・IV KC (C) 19365, 19622, 19858.

温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では、西山、東山、西側斜面の森林にやや稀。

V7. var. *sanguineus* Nakai カントウマユミ

在来 IV KC (B) 20080S.

葉裏の主脈上に短い開出毛を持つ変種で、岡田山では社交館西側斜面の森林にごく稀。

222. *Celastrus orbiculatus* Thunb. ツルウメモドキ

在来 目録1・2 I・II・III・IV 19364, 19437, 19714, TK15.

温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では、各所の森林や林縁にやや稀。

70. Rhamnaceae クロウメモドキ科

223. *Rhamnus crenata* Siebold et Zucc. イソノキ

在来 I・II・III・IV KC (D) 19185, 20069.

暖温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では、西山、東山、西側斜面の森林にやや稀。

224. *Berchemia racemosa* Siebold et Zucc. クマヤナギ

在来 目録2 (再版) I・III・IV KC (C) 19607S.

温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では、南山、谷門、西側斜面の森林に稀。

71. Vitidaceae ブドウ科

225. *Vitis ficifolia* Bunge エビヅル

在来 目録1・2 I・II・III・IV KC (C) 19895, 19937.

草原や林縁に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では、音楽館周辺と西側斜面の林縁などにやや稀。

226. *Vitis saccharifera* Makino アマヅル
 在来 I・II・III・IV 19374.
 下部温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の森林にやや普通。
227. *Ampelopsis glandulosa* (Wall.) Momiy. var. *heterophylla* (Thunb.) Momiy. ノブドウ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19233, KK154, KK157.
 温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の草地や林縁に普通。
 F6. *forma citrulloides* (Lebas) Rehd. キレハノブドウ
 在来 I・III 20125.
 葉が細かく切れ込む品種で、岡田山では母種に混じって稀にみられる。
228. *Parthenocissus tricuspidata* (Siebold et Zucc.) Planch. ツタ (ナツツタ)
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19408.
 温帯に生育する夏緑性のつる木本。岡田山では各所の森林に普通。
229. *Cayratia japonica* (Thunb.) Gagnep. ヤブガラシ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19186, 19843.
 林縁に生育する多年生のつる草本。岡田山では各所の林縁や路傍に普通。

72. Malvaceae アオイ科

230. *Hibiscus mutabilis* L. フヨウ
 帰化 I・II・IV 19598, KK197.
 中国原産の夏緑広葉低木。岡田山では、各所の林縁に逸出個体がやや稀にみられる。
231. *Malva sylvestris* L. var. *mauritiana* (L.) Boiss. ゼニアオイ
 帰化 I 19242.
 ヨーロッパ原産の1年草。構外飛び地の放棄水田(岡田山3丁目)の周辺に連年発生していた。

73. Sterculiaceae アオギリ科

232. *Firmiana simplex* (L.) W. Wight アオギリ
 逸出 I・II・IV 19438S, 20134S.
 暖温帯から亜熱帯の沿海域に生育する夏緑広葉高木。本来の分布域は伊豆半島以西の太平洋岸であるが、街路樹や庭園樹としてよく植えられる。岡田山では、各所の林縁に逸出個体が稀にみられる。

74. Thymelaeaceae ジンチョウゲ科

233. *Diplomorpha ganpi* (Siebold et Zucc.) Nakai コガンビ
 在来・絶滅 目録2 IV† KC (E)
 暖温帯の明るい草原に生育する夏緑半低木。目録2に記録があるが現在はみられない。

75. Elaeagnaceae グミ科

234. *Elaeagnus pungens* Thunb. ナワシログミ
 在来 目録2 I・II・III・IV 19590, 20167.
 暖温帯に生育する常緑広葉低木。岡田山では各所の森林や林縁にやや普通。
235. *Elaeagnus umbellata* Thunb. var. *coreana* (H. Lévl.) H. Lévl. カラアキグミ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19030, 19618, 20000, TK18.
 温帯に生育する夏緑広葉低木。岡田山では各所の林縁にやや普通。目録1・2にはアキグミとして記載されているが、岡田山のものは全て、葉の表面にまばらに星状毛を敷くカラアキグミ var. *coreana*

という変種である。

236. *Elaeagnus multiflora* Thunb. var. *hortensis* (Maxim.) Servett. トウグミ
在来 目録1 I KC (C) 19029.
温帯に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では西山の林縁に稀。

76. Flacourtiaceae イイギリ科

237. *Idesia polycarpa* Maxim. イイギリ
在来 I⁺・III KC (C) 19878 (SHO).
暖温帯に生育する夏緑広葉高木。岡田山では谷門の森の林縁に稀。西門道路の個体は枯死した。

77. Violaceae スミレ科

238. *Viola mandshurica* W. Becker スミレ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19336, KK8, KK14.
原野や路傍に生育する多年草。岡田山では各所の庭園や路傍に普通で、とくに大学中庭の側溝に群生する。
239. *Viola minor* (Makino) Makino ヒメスミレ
在来 II・III・IV 19023, 19981.
原野や路傍に生育する多年草。岡田山では庭園や路傍にやや普通。
240. *Viola yedoensis* Makino ノジスミレ
在来 II・IV KC (C) 20086.
原野や路傍に生育する多年草。岡田山では大学中庭の側溝に多くみられ、スミレよりも半月ほど早く開花する。
241. *Viola betonicifolia* Sm. var. *albescens* (Nakai) F. Maek. et T. Hashim. アリアケスミレ
在来 IV KC (A)
水田の周辺や原野に生育する多年草。岡田山では大学中庭の側溝にわずかに1~2個体がみられる。標本は採っていない。
242. *Viola japonica* Langsd. ex Ging. コスミレ
在来 III・IV KC (C) 19334, 19636, 20175.
原野や森林に生育する多年草。岡田山では、谷門の森の林縁に小群落がみられるほか、四十谷川沿いにも稀に少数個体がみられる。岡田山の個体群は、側弁の基部に毛があるヒゲコスミレ *forma barbata* Hiyama ex F. Maek. と呼ばれる型である。
243. *Viola violacea* Makino シハイスミレ
在来・絶滅 目録1・2 I⁺・II⁺ KC (E) KCH.
西日本の明るい森林や林縁に生育する多年草。関西の二次林に普通のスミレであるが、岡田山では森林の遷移の進行により、近年絶滅した。
244. *Viola verecunda* A. Gray ツボスミレ
在来 目録2 III⁺・IV KC (B) 19368, 19709.
湿地や河川に生育する多年草。岡田山では四十谷川沿いの林縁や湧水地の周辺に稀。
245. *Viola grypoceras* A. Gray タチツボスミレ
在来 目録2 II⁺・III・IV KC (B) 20214.

原野や路傍、雑木林などに生育する多年草。岡田山では、藤棚の西側に小群落がみられるが、在来のものなのか、張り芝の混入種子に由来するものなのか判断できない。

246. *Viola obtusa* (Makino) Makino ニオイタチツボスミレ

在来 目録2 I・II・IV KC (C) 19212, KK2.

明るい草地に生育する多年草。岡田山では音楽館周辺の草地や大学中庭の芝草地にやや稀。なお、目録1・2にナガバタチツボスミレ *V. ovato-oblonga* (Miq.) Makino の記録があるが、おそらくは本種の誤認と思われる。

247. *Viola odorata* L. ニオイスマイレ

帰化 I・II・III・IV 19021, 19631, 19962.

ヨーロッパ原産の多年草。岡田山では各所の林縁に逸出個体がみられ、紫色花と白色花がある。

248. *Viola sororia* Willd. アメリカスミレサイシン

帰化 III

北アメリカ原産の多年草で、日本では近年急速に広がったといわれる (いがり 2004)。岡田山ではタルカット館前の植栽樹群地に、花が淡青紫色の forma *priceana* (Pollard) Cooperr. という品種が近年定着している。

78. Cucurbitaceae ウリ科

249. *Trichosanthes cucumeroides* (Ser.) Franch. et Sav. カラスウリ

在来 目録1・2 I・II・III・IV KC(C) KK208S, 20158, 20166.

林縁に生育するつる性の多年草。岡田山では各所の林縁にやや稀。

250. *Zehneria japonica* (Thunb.) H. Y. Liu スズメウリ

在来 目録2 III⁺・IV KC (B) 19305, KK177.

原野や林縁に生育するつる性の1年草。岡田山では四十谷川側沿いの林縁に稀。

79. Myrtaceae フトモモ科

251. *Callistemon rigidus* R. Br. マキバブラッシノキ

帰化 IV 19563, 19795.

オーストラリア原産の常緑小高木。岡田山では、市道今津西線の法面に逸出個体がみられる。

80. Onagraceae アカバナ科

252. *Oenothera biennis* L. メマツヨイグサ

帰化 目録3 I・II・III・IV KK135.

荒地や路傍に生育する北アメリカ原産の2年草。岡田山では各所の路傍にやや普通。

253. *Oenothera glazioviana* Micheli オオマツヨイグサ

帰化 目録1・2 I⁺

荒地や路傍に生育する北アメリカ原産の2年草。目録1・2に記録があるが、現在の岡田山にはみられない。

254. *Oenothera laciniata* Hill コマツヨイグサ

帰化 I・II・III・IV 19139, 19786.

荒地や路傍に生育する北アメリカ原産の多年草。岡田山では路傍や芝草地にやや普通。

255. *Oenothera stricta* Ledeb. ex Link マツヨイグサ
 帰化 目録1・2 I・II⁺・IV 19097, 19241, KK70, KK87.
 荒地や路傍に生育する南アメリカ原産の2年草。岡田山では正門車道沿いや理学館西側の路傍にやや稀。
256. *Oenothera rosea* L'Hér. ex Aiton ユウゲシヨウ
 帰化 I・IV 20211.
 河川や路傍に生育する北アメリカ原産の多年草。岡田山では近年、路傍や西側崖地にみられるようになった。
257. *Gaura lindheimeri* Engelm. et A. Gray ヤマモモソウ (ハクチョウソウ)
 帰化 III・IV 20210.
 路傍に生育する北アメリカ原産の多年草。岡田山では温室周辺や社交館付近に逸出している。

81. Haloragaceae アリノトウグサ科

258. *Haloragis micrantha* (Thunb.) R. Br. ex Siebold et Zucc. アリノトウグサ
 在来 目録1・2 I・II・IV KC (B) 19446, 19853.
 湿地や湿った路傍に生育する小型の多年草。岡田山では音楽館周辺の草地や湧水湿地に稀。

82. Cornaceae ミズキ科

259. *Aucuba japonica* Thunb. アオキ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV KK21.
 暖温帯の森林に生育する常緑広葉低木。岡田山では各所の森林にごく普通。森林内にみられる本種の大部分は自生個体と考えられるが、園芸品種のフイリアオキ cv. *Variiegata* もしばしば逸出している。

83. Araliaceae ウコギ科

260. *Aralia elata* (Miq.) Seem. タラノキ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19269.
 温帯の森林や林縁に生育する夏緑広葉小高木。岡田山では各所の林縁にやや普通。
261. *Aralia cordata* Thunb. ウド
 在来 IV KC (B) 19938S, 20073.
 原野や林縁に生育する大型の多年草。岡田山では四十谷川沿いの林縁に少数個体がみられる。
262. *Hedera rhombea* (Miq.) Bean キツタ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19612, 19771.
 温帯の森林に生育する常緑性のつる木本。岡田山では各所の森林や林縁にやや普通で、とくに西側斜面の森林に多い。
263. *Fatsia japonica* (Thunb.) Decne. et Planch. ヤツデ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19612, 19771.
 暖温帯の森林に生育する常緑広葉低木。岡田山では各所の森林にやや普通。
264. *Dendropanax trifidus* (Thunb.) Makino ex. H. Hara カクレミノ
 在来 目録1・2 I・II・III・IV 19175S, 20151.
 暖温帯の森林に生育する常緑広葉小高木。岡田山では各所の森林にやや普通で、とくに南山の森林に多い。

84. Apiaceae (Umbelliferae) セリ科

Hydrocotyloideae チドメグサ亜科

265. *Hydrocotyle ramiflora* Maxim. オオチドメ
在来 I・II KC (C) 19457, 19738.
明るい草原や原野に生育する多年草。岡田山では音楽館周辺の草地にやや稀。
266. *Hydrocotyle maritima* Honda ノチドメ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19147, 19401, 19893, KK95.
水田や路傍に生育する多年草。岡田山ではグラウンドや路傍、芝草地などに普通。
267. *Hydrocotyle sibthorpioides* Lam. チドメグサ
在来 目録1・2 I・II・III・IV 19706, KK84.
湿った路傍に生育する小型の多年草。岡田山では路傍や林縁の石垣などにやや普通。
268. *Centella asiatica* (L.) Urb. ツボクサ
在来 目録2 I・II・III・IV 19294, 19831.
草地や路傍に生育する多年草。岡田山では各所の林縁や植栽樹群地などにやや普通。

Apioideae セリ亜科

269. *Torilis scabra* (Thunb.) DC. オヤブジラミ
在来 I・II・III・IV 19043, 19078, KK63.
林縁や路傍に生育する1年草。岡田山では各所の林縁や空き地に普通。目録1・2にはヤブジラミ *T. japonica* (Houtt.) DC. が記録されているが、おそらくは本種の誤認と思われる。
270. *Cryptotaenia japonica* Hassk. ミツバ
在来 II・III・IV 19565, 19821.
湿った林縁や林内に生育する1年草または越年草。岡田山では各所の林縁にやや稀であるが、四十谷川沿いには比較的多くの個体がみられる。
271. *Oenanthe javanica* (Blume) DC. セリ
在来 I・IV KC(B) 19887.
湿地や河川に生育する多年草。岡田山では四十谷川沿いの林縁に小集団がみられる。
272. *Apium leptophyllum* (Pers.) F. Muell. ex Benth. マツバゼリ
帰化 IV 15024, 19372, 20193.
路傍に生育する熱帯アメリカ原産の1年草。阪神・淡路大震災後、数年間はグラウンド等に発生したが、現在では四十谷川沿いの石垣に稀にみられるに過ぎない。北隣の聖和大学構内には多い。

引用文献

- 福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃編。2000. 兵庫県産維管束植物2. 人と自然, No. 11: 85-104.
福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃編。2001. 兵庫県産維管束植物3. 人と自然, No. 12: 105-162.
福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃編。2002. 兵庫県産維管束植物4. 人と自然, No. 13: 131-184.
福岡誠行・黒崎史平・高橋 晃編。2003. 兵庫県産維管束植物5. 人と自然, No. 14: 111-162.
兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課編。2003. 改訂・兵庫の貴重な自然, 兵庫県版レッドデータブック2003. 382pp. 神戸。
いがりまさし。2004. 増補改訂日本のスミレ. 山溪ハンディ図鑑6. 287pp. 山と溪谷社, 東京。
Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds. 1999. Flora of Japan IIc, Angiospermae, Dicotyledoneae,

- Archichlamydeae (c). 328pp. Kodansya, Tokyo.
- Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds. 2001. Flora of Japan IIb, Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (b). 321pp. Kodansya, Tokyo.
- Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds. 2006. Flora of Japan IIa, Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (a). 550pp. Kodansya, Tokyo.
- 神奈川県植物誌調査会編. 2001. 神奈川県植物誌. 2001. 1580pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 環境庁編. 1980. 日本の重要な植物群落, 近畿版. 第2回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)特定植物群落調査報告書. 大蔵省印刷局, 東京.
- 環境庁自然保護局野生生物課編. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物, レッドデータブック 8, 植物 I (維管束植物). 664pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 小林禧樹・黒崎史平・三宅慎也. 1998. 六甲山地の植物誌. 301pp. 神戸市公園緑化協会, 神戸.
- 神戸女学院環境保全委員会編. 1982. 岡田山の植物. 「増補改訂岡田山の自然」, 192-193. 神戸女学院, 西宮.
- 神戸女学院高等学部理科研究部編. 1967. 岡田山植物目録. 50pp. 西宮.
- 工藤 洋・K.マルホルド・J.リホバ. 2006. 日本産ジャニンジン・タネツケバナ・ミチタネツケバナ・コタネツケバナ (アブラナ科, タネツケバナ属) に関するノート. 分類, 6: 41-49.
- 野寄玲児. 1994. 北摂山地の森林植生の生態学的研究 I. クヌギーコナラ優占型二次林の植生. 神戸女学院大学論集, 41: 135-146.
- 野寄玲児・熊取谷薫・北川智美・西原光恵. 2006. 神戸女学院岡田山キャンパスの高等植物相 (I). 総論および各論第1部—シダ植物門, 種子植物門・裸子植物亜門—. 神戸女学院大学論集, 52(3): 63-90.
- Ohashi, H. 2001. Leguminosae (Fabaceae). In: Flora of Japan IIb, Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (b) (Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. eds.). Kodansya, Tokyo.
- 岡田山の自然編集委員会編. 1974. 岡田山の生物目録. 「岡田山の自然: 六甲山東麓の生物とその生態」, 89-130. 神戸女学院百周年記念「岡田山の自然」出版委員会, 西宮.
- 岡田山の自然編集委員会編. 1976. 岡田山の生物目録. 「岡田山の自然: 六甲山東麓の生物とその生態. 再版」, 89-130. 神戸女学院百周年記念「岡田山の自然」出版委員会, 西宮.
- レッドデータブック近畿研究会編. 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物, レッドデータブック近畿 2001. 164pp. 平岡環境科学研究所, 川崎.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編. 1989a. 日本の野生植物, 木本 I. 321pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編. 1989b. 日本の野生植物, 木本 II. 305pp. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫編. 1982b. 日本の野生植物, 草本 II, 離弁花類. 318pp. 平凡社, 東京.
- 清水建美編. 2003. 日本の帰化植物. 337pp. 平凡社, 東京.

(原稿受理 2006年4月21日)